

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)
(生命理工医療科学先端研究特論)(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

1. 講師 三光舎(Sunlight Brain Research Center)
長嶺 敬彦先生
2. 演題 受容体親和性で理解する向精神薬の副作用
3. 日時 2018年12月18日(火)18:00~20:00
4. 場所 10号館2階 歯科心身医学分野医局

5. 要旨

精神疾患は生活の妨げの指標である years lost due to ability (YLDs)の第1位を占める(WHO 2015)。器質的病態を伴わない口腔顔面の耐え難い慢性疼痛も QOL の低下と社会的損失を招いている。したがって向精神薬による適正な治療が重要である。一方、2008年の診療報酬改訂でハイリスク薬に指定された薬の3分の1は向精神薬であった(三輪高市:医薬品安全性学, 3;69-79, 2018)。向精神薬は副作用に注意しなければならない。一般的に、薬により出現した副作用の半数は予防が可能であったと推計されている(Hakkarainen KM, et al.: PLoS One, 7: p. e33236. 2012)。向精神薬の副作用を予防するには受容体プロファイルを理解することが有用である(長嶺敬彦. 予測して防ぐ抗精神病薬の副作用. 2009)。副作用は通常は用量依存的に出現するが、主要組織適合遺伝子複合体が関与するカルバマゼピン過敏症のように個体の感受性による副作用もある。本講義では向精神薬の副作用を受容体プロファイルから理解することを目的とする。さらには向精神薬の個体感受性が関与する副作用についても言及する。

連絡先: 豊福 明 (歯科心身医学分野 内線 5909)